

令和7年度事業計画

1. 会議の開催

- ① 理事会2回、評議員会1回以上開催する。

2. 機関誌の発行

- ① 「書学」(不定期)、「不二(一般・中高・上級・初級)」、「ぺんの力」計6誌を継続発行する。更に今後も伝統書道の普及を目指し、より一層の内容の充実を図る。
- ② ホームページに不二誌の内容を掲載し、購読申込の機会の充実を図る。
- ③ 毎年4月号の付録としていた書道手帳を、印刷費削減の為、ホームページよりダウンロードできるようにし、手帳を利用したい会員がいつでも利用できるよう利便性を図る。
- ④ 用紙代、人件費、印刷費、発送費などのコスト高に備え、極力経費削減に努め、DTP化の充実とプリントパックなどの活用を図る。

3. 月例競書審査会

- ① 会員から提出された清書により、月例審査会に於いて段級位の認定を行う。
- ② 審査及び事務処理体制の充実を図る。
- ③ 全国的な連帯を図るべく、各地の優秀教場・教室長を地方審査員として迎える。
- ④ 書道・硬筆ペン作品とも最優秀作品の一部を、本部1階ショーウィンドウに掲示し、会員の意欲向上を図る。

4. 昇格・昇段試験

- ① 第1回6月、第2回9月、第3回12月、第4回3月に実施する。
- ② 「一般版」、「ぺんの力」において会友試験を年1回11月に実施する。なお、一般版部門については各段級位に正・準の2階級制度を実施し、「会友」資格への実力向上を図る。

5. 会員登録

- ① 公認段級位制、厳正な管理の一環として、引き続き一般版・ぺんの力・中高版・上級版・初級版においてバーコードによる段級管理を実施し、段級の厳格化および発表の正確性、月例審査の効率化を図る。
- ② インターネットによる段級位の発表を毎月実施し、国内・海外の会員等に対し、学習のサポート体制の強化を図る。
- ③ 会誌・書学院・通信教育・納経の会員データを統合した会員システムを運用し、会員に対するサービスの向上を図る。
- ④ 株式会社システナでの会員管理システム全面構築を進め、以下の業務改革を実施し、コスト削減と業務の効率化を図る。
 1. 教室会員による不二誌部数および会費の取りまとめ制度を廃止、会員アプリなどを活用した個人での会員登録制度を構築し、会費ならびに昇段試験料は個人に請求、自動回収をする。
 2. 会報発送システムを全面的に見直し、郵便料金値上げによる影響の対策として、教室会員の割引制度を廃止し、会員には第三種郵便で発送をする。
 3. アウトソーシングしていた段級管理を内製化する。

6. 書学院

- ① 神田書学院は年3期制（4月・9月・2026年1月開講）とし、2年間で師範取得を目指す師範科と、より専門的に学ぶ特設科を開講。夏季と冬季には、短期講座を開催し、受講生の他、不二誌会員など広く受講を受け入れる。
- ② 老朽化している書学院システムを「桐」から「Salesforce」に移行刷新する。
- ③ リニューアルしたホームページからの集客増を目指す。
- ④ ホームページにクレジット決済機能を搭載し、受講生の利便性を高めるとともに、窓口業務の効率化を図る。
- ⑤ 訪日インバウンド向けの書道体験講座をOTA2社に登録し、募集する。講座内では実技体験の他、漢字の起源や道具の説明を行い、書道文化の魅力を伝える。

7. 全国優秀教場長教室長表彰・優秀教室会員表彰の開催

- ① 不二誌を通して指導を行っている全国の教場長、教室長を対象に表彰並びに会議を実施する。
- ② 不二誌を通じて書道を学ぶ会員の中で、各教場長、教室長が推薦する者を優秀教室会員として表彰する。

8. 資格及び実力の認定

- ① 師範・司教・助教の資格認定、上級・中級・初級の実力認定、および公認段級制度による段級の認定を行う。

9. 全国書道検定試験およびペン硬筆検定試験の実施

- ① 第65回全国書道検定試験・第45回全国ペン硬筆検定試験の実施
5月17日（土）～6月2日（月）に行い、実地試験は5月22日（木）に神田書学院（東京都）に於いて実施する。司教以下の試験は自宅試験として実施する。
- ② 第98回級位認定書道検定試験・第88回級位認定ペン硬筆検定試験の実施
5月17日（土）～6月2日（月）に自宅試験として実施する。
- ③ 秋の検定試験を中止する。

10. 写経塔・筆塚供養祭の開催

- ① 写経塔・筆塚供養祭の開催。
供養祭を10月5日（日）に東洋文化不二研修所に於いて実施する。

11. 第47回全国公募千字文大会

- ① 会期：8月29日（金）～8月31日（日） 表彰式：8月30日（土）
- ② 会場：神田書学院
- ③ 優秀作品には文部科学大臣賞、静岡県知事賞他を贈る。
※学校法人扶桑学園 日本書道藝術専門学校と共催。
- ④ 不二各誌およびぺんの力の10月号にて、成績ならびに特選作品を掲載する。

12. 第16回「漢字造型」と「傳統の寫經」展

- ① 会期：9月23日（火）～9月28日（日）
- ② 会場：東京鳩居堂画廊

13. 第75回書道學會展

- ① 会期：令和8年1月4日（日）～1月10日（土）
- ② 会場：東京都美術館
- ③ 役員の優秀作品には内閣総理大臣賞他、公募の優秀作品には文部科学大臣賞他を贈る。

- ④ 東京都美術館の展示室数について、これまで3室しか割り当てられず作品数に対して展示スペースが狭いため、令和9年度以降の割り当てでは4室を確保すべく、申請手続きを進める。

14. 第75回全日本学生書道展

- ① 会 期：令和8年1月4日（日）～1月10日（土）
- ② 会 場：東京都美術館
- ③ 優秀作品には文部科学大臣賞他を贈る。
- ⑤ 東京都美術館の展示室数について、これまで3室しか割り当てられず作品数に対して展示スペースが狭いため、令和9年度以降の割り当てでは4室を確保すべく、申請手続きを進める。

15. 令和8年書初不二誌上展

- ① 不二各誌およびぺんの力の3月号にて、成績ならびに特選作品を掲載する。

16. 第39回不二現代書展

- ① 会 期：令和8年3月17日（火）～3月22日（日）
- ② 会 場：大阪市立美術館
- ③ 優秀作品には新和様・漢字造型書作家協会賞、文部科学大臣賞他を贈る。
- ④ 大改修を終えた大阪市立美術館にて、より多くの出品を募る。

17. 文部科学省認定社会通信教育

- ① 「書道基礎科講座」、「書道専攻科講座」、「ペン習字教育講座」
「ペン習字基礎講座」、「篆刻入門講座」の5講座を継続実施する。
- ② 別に併設講座として「速習ペン字講座」「写経入門講座」を継続実施する。
- ③ 書道・ペン既存講座の教材の改訂を順次行う。通信教育講座の受講料は、教材改訂後順次見直しを行う。

18. 伊豆川奈東洋文化不二研修所

- ① 継続運営する。資料館に於いて書道名蹟を展示し、書道大研修室、視聴覚室、写経道場、坐禅道場、茶室等の場を供し、恵まれた環境の中で書道研修を行い、心身共に調和した学書者を養成する。引き続き、書道名蹟、文房四宝、蔵書の整理も行う。

19. 後援・講習会

- ① 書学院に於いて写経実践会・書塾指導者講習会などの講座を実施する。
- ② 全国不二教場・教室主催の書道展・講習会に後援協力する。

20. 書道教育推進事業

- ① 平成18年度より内閣総理大臣の認定を受け、「書道教育特区」として実施されていた「書道」授業を引き続き実施し、伊東市内の全小学校7校で、日本書道藝術専門学校の主導のもと、本会の書道師範免許取得者の派遣を継続し、全国各地に「書道」授業導入の支援を行う。

21. インターネットの活用

- ① 会員の利便性を高めるため、段級検索機能や納経巻数検索機能の他、会員からの声や活字課題、優秀作品、展覧会案内、受賞作品の掲載など、より多くの情報を提供していく。
- ② 各展覧会の会場の様子および展示作品をWEB展としてホームページにおいて紹介する。
- ③ 写経納経巻数の検索は、需要が低いことから中止する。

22. 書画・書籍の修復・維持

- ① 長期的な視点に立って、石橋犀水の作品の整理、作品の状態の把握、作品の保管環境の改善を図り、また、不二研修所内の作品、書籍の整理及び保管を行う。

23. 事業部関連の作業場確保

- ① 横田用紙店の5階を賃借し、各展覧会、月例審査会等の作品仕分けおよび備品管理、展覧会関連行事の事前準備等の作業を行っていたが、本部ビル地下を改修し、作業場として使用することで、作業の効率化とコスト削減を図る。

24. 新和様・漢字造型書作家協会の活動

- ① 新和様・漢字造型書作家協会選抜展の展覧会会場である東京芸術劇場が改修工事に入り使用できなくなることから、令和7年度の選抜展の開催を中止し、新和様・漢字造型書作家協会の活動および展覧会の開催を休止する。

以上